

# プレゼンテーションの一考察

## ～「一文字プレゼン」について～

千葉県立船橋高等学校情報科教諭  
國分 陽一

### 1. はじめに

本校では3年生で「情報C」を行っているが、24年度入学生からカリキュラム変更で情報が1年生に移動した。従って、25年度は1年生で「社会と情報」、3年生で「情報C」の授業があり、私は3年生の「情報C」をTTをつけずに専任で担当している。

生徒には、最初の授業で1年間の授業予定と次の5点を提示し、授業への取り組みを理解させている。

- (1) 「情報倫理・問題解決・コミュニケーション」を三本柱に授業を展開する。
- (2) 単にコンピュータ実習だけではなく、調べ学習(著作権、コンピュータウイルスなど)を取り入れ、現実社会の姿を自分たちの目で確認する。
- (3) 普段使い慣れているコンピュータや携帯・スマホではあるが、そこに潜む光と影を十分理解する。
- (4) 新聞、雑誌、インターネット上の情報等最新の情報を可能な限り取り入れた授業を行う。
- (5) 主な実習は前期でプレゼンテーション、後期でExcelを行う。内容は主に問題解決。

本校は、ほぼ100%の生徒が進学を志望するいわゆる進学校である。そこで、実習においては、生徒の進学と絡めたもの、生徒が将来進学先で役に立つものを扱うように心がけた。

### 2. プレゼンテーションの工夫

プレゼンテーション(以下、プレゼン)能力は今後の進路で必ず必要とされるものである。そのことも踏まえて授業展開を工夫した。その最大のものが「評価」である。評価を行うことで、自分のプレゼンを振り返り、今後に生かす糧になると考えた。

通常プレゼンの授業を行うときは、課題を行う過程や結果、上手なプレゼンを目標にすることが多いと思われるが、私は過程や結果よりもむしろ自分の

作成した「スライド」や「発表」を「他人がどのように評価しているか」を認識させることに重点を置いた。結局プレゼンは自分の言いたいことが伝わらなければ、どのようなすばらしい内容だったとしてもそれはプレゼンとしては失敗だと考えたからである。

プレゼンは二度行った。一度目はPC上でクラス全員のスライドを見て評価を行う「スライド評価」、二度目は発表を聞いて評価を行う「発表評価」である。それぞれの評価は集計して生徒個々に小票として配付する。

「スライド評価」プレゼンは、大学選びについての識者数人の座談会をプリントして配り、その内容を要約する形式でプレゼンを作らせた。目的は要約力養成と大学についての知識を深めることである。さらに他人のスライドを評価する過程で、自分と他人のスライドを比較させ、より効果的なスライドを考えさせた。

**「一文字プレゼン」**

(1) ○×△大学 A0 入試問題(想定)

- ・課題の「1」～課題「100」から一つ選びなさい。
- ・課題の中の文字から何を連想しますか。
- ・「なぜその連想をしたのかを簡潔に説明し、そこからどのような展開を経て、どの帰結論に導くか」小論文に書きなさい。
- ・次にその小論文を「表紙を入れて 6～10枚のスライド」にし、5分以内でプレゼンをしなさい。

(2) 今時(2時間)、次回(2時間)で完成させます。

- ・小論文が書いたものと仮定し、今回はプレゼン部分のみ 4時間で完成させます。
- ・次回提出時に「ノート」を「メモ帳」に貼り付けて提出します。印刷して配付します。

(3) 次回は、ランダムに指名し、一人 5分以内でプレゼンをしてもらいます。聞いている人はプレゼン発表の評価をします。

※小論文の流れ  
「漢字」-連想-課題

- ・課題に対する自分の立場
- ・事例、論証、反論対策
- ・結論、まとめ

図1 「一文字プレゼン」作成の前提条件

それを受けて「一文字プレゼン」のスライドを作成させ、「発表評価」を行わせた。

私は現在情報の専任として授業を担当しているが、私の基礎教科は国語である。国語で情報の免許状を取得している珍しいケースではないかと思う。授業ではその経歴を生かそうと考えた。自身本校では数年前まで国語や進路指導主事も担当していたので、国語と進路を組み合わせた内容として「一文字プレゼン」を考えた。

かつてAO入試が出始めた頃には、さまざまな入試が考え出され、そのときに漢字一文字から小論文を書かせるというのもあったように記憶している。それを今回活用することにした。生徒が第一志望とする大学の入試で「漢字一文字から小論文を書き、それを6枚以上10枚以内のスライドにまとめ、5分間でプレゼンしなさい」という入試問題が出されたと想定し、今回はそのプレゼン部分だけを行わせることにした。

### 3. 小論文指導

事前準備として、前時に2時間かけて「小論文とは何か」を講義・実習した。生徒には連想から「課題」(Q)を作り、それに対する意見(A)を述べるのが小論文の基本だと教える。プレゼンでは小論文の手法を踏まえてスライドを作成することを指示した。次の例は、一般的な小論文の書き方にはほぼ共通して書かれている内容である。これがどのような意味を持っているのか、何が小論文と言われるゆえんのかなどについて、事例を挙げて講義し、実際に生徒にも書かせてみた。

自分のスタイルを作る		
ある本に次のようであった。		
• 本文によると〇〇だという	(要約)	20%
• 確かに〇〇である	(譲歩)	10-15%
• しかし、私は××と考える	(意見)	25-30%
• なぜなら、△△だからである	(理由)	10%
• たとえば、□□がある	(具体例)	10%
• したがって、◎◎である	(結論)	20%

図2 小論文説明スライドより

### 4. 一文字プレゼン

情報は2時間連続授業なので、二日間、すなわ

ち4時間を「一文字プレゼン」作成に充てた。漢字を100字用意し、生徒は任意の番号を引き、そこに記された漢字についてスライドを作成する。ただし、小論文なので「漢字から何かを連想する。連想したことに対して自分の意見を述べる。自分の意見を裏付けする。まとめる。」という小論文の流れを厳守させた。単に漢字の説明だけのものや裏付けのない単なる思いつきなどは不可とした。生徒は最初時間が短いなどと言っていたが、入試なのでできなければその大学に入れない、ということで納得させた。進学校ではこれが妙に説得力を持っているのがおもしろいところである。

汗、光、人、辛、異、楽、遊、皆、大、空、川、水、金、土、木、火、彩、冬、点、音、知、痛、休、快、林、海、少、足、臭、無、秋、芳、福、嘆、春、夏、転、青、洋、怒、月、雲、用、干、幻、東、定、小、中、低、高、遠、近、想、漂、風、尽、和、拍、何、暁、祈、言、西、南、北、比、草、石、匂、糸、葉、全、白、浮、消、受、害、曲、気、色、前、爽、活、豊、美、汗、照、兼、今、熱、外、求、長、利、失、弾、連、吉、紙

図3 100字一覧

生徒にとってはプレゼンを作るというよりも、「漢字から連想し自分の意見を述べる」という小論文の方がハードルが高かったようである。本校のような進学を主とする学校でも、国語や数学といういわゆる入試科目はよく勉強するが、小論文を学ぶという機会はほとんどない。ところが、最近の大学入試では国立系の二次試験や後期試験では、かなりの確率で小論文が課せられている。生徒たちはセンター試験が終わってから慌てて小論文の対策を始めるが、実際問題短時間で何とかなるものではない。また、小論文をきちんと指導できる教員もごく限られてくるのが現状である。国語の教員でも小論文の訓練を受けたものでなければ「受かる」小論文指導はできない。夏休み前の時期に小論文についての一応の知識を身につけさせておくことは、進路面から考えてもかなりの効果があるはずだと考えた。

生徒の取り組みは実に真剣そのものである。Wordで最初に小論文を作ってからスライドに入る



図4 発表風景

もの、スライドのノートペインを先に作ってスライドの構成を考えるもの、用意したメモ用紙で簡単なフローチャートを作るもの、最初大きな項目だけのスライドを作り後で細部を詰めていくものなどさまざままで、ともかくも課題の10枚以内を作り上げていった。

発表は教室の前に立ち、プロジェクタでスライドを投影して行った。クラス内での発表でも生徒たちはかなり緊張していた。ここでは言葉遣い、自称などの指導をした後、5分間で自由に発表させた。時間はキッチンタイマーで計り、時間が来るとブザーが鳴るようにした。聞いている生徒も真剣に評価を行った。

## 5. 評価の工夫

評価はExcelで作った「評価表」をファイルとして配付し、ファイルに入力の後提出させた。

### (1) スライド評価

評価項目として、

- ① 構成(項目ごとのまとまり、構成)

- ② 内容(項目ごとの内容のまとめ)

- ③ 画面(見やすさ、統一性、愛情)

- ④ 工夫(色、動き、レイアウト)

- ⑤ 完成度(全体としての完成度)

をそれぞれ5点満点の計20点で評価させた。③の「愛情」は変わった項目だと思うかもしれないが、スライドは見る対象が必ずしも一定とは限らない。特定の人たちに不快な画面や話し方であってはならないし、文字が多すぎて見にくいのも愛情に欠ける。「スライドを見ていただく」気持ちで作ってあるかを生徒自身の目で判断させた。番外として「ベストスライド」を投票させた。集計してみると0票から20票位まで大きな差が出て、多くの投票を得た生徒は大きな自信になったようである。最後のコメント欄は「よかった、悪かった」ではなく、「何がよかったのか、何が悪かったのか」具体的に書くことを指示した。抽象表現や感覚表現が多くなっている昨今、「具体的」に指摘できることが大切だと考えたからである。

### (2) 発表評価

評価の仕方としては基本的に(1)と同様であるが、評価項目を、次のようにした。

- ① 画面(見やすさ、工夫、愛情)

- ② 連想(連想が自然か)

- ③ 内容(主張が出ているか、文字の説明のみか)

- ④ 画面操作(画面の切り替え、スライド操作)

- ⑤ マナー(話し方、態度、時間)

これに加えて、(1)と同様に「ベストプレゼン」の投票、「コメント」を記入させた。

生徒の評価は個人ごとに集計し、小票として生徒個々に配付した。自分の作成したスライドや発表

一文字プレゼン評価表						組 番	氏名	
※ 工夫については、あれほよいと言うのではない。色にしても動きにしても、それがどれだけ効果的に使われているかだ。アニメーションがあまりすぎてもそれが逆にマイナスになる例も多い。								
※ 効果的なプレゼンとは何か、自分が伝えたいことが「画面」から伝わったかを常に検証したい。								
↓(注)欠番の場合もあります				↓気に入ったスライドに「1」を入れてください(数の制限なし)				
評価 番号	自分の スライド *	発表				合 計	平 均	ベ ス ト プ レ ゼ ン
		画面	連想	内容	画面操作			
		画面の見易さ 画面の工夫 愛情・ノート	連想の自然さ 連想が不十分	文字の説明のみ 主案が出ている 展開、結論	画面の切り替え スライドの操作	話し方 態度 時間		
		5~1	5~1	5~1	5~1	5~1		
1								
2								
3								
4								

図5 一文字プレゼン評価表

番号	1	カウント	41				
構成	内容	画面	工夫	完成度	合計	平均	ベスト
4.5	4.6	4.6	4.5	4.3	22.5	4.5	22
コメント	<p>「無」から「無限の可能性」をイメージしたのがすごいと思いました。視聴者の注意をひきつける工夫を会話の節々でしてよかったです。、画面による積極的な支援が必要とされる問題であると思います。、クールでした。、会社にいるみたいになりました。、勉強になりました。、内容が濃くて面白かったです。、説明が理解しやすい、わかりやすい、まとめが「無」に戻ってよかったです。、簡潔だった、筋の通った展開ですごくわかりやすかったです。さすがです。、とてもよかったですと思う。、内容がわかりやすかった、話し方もしっかりして発表が面白いと思った。、時間過ぎても聞きたいプレゼンでした。、発表が上手かったです。、内容や自分の意見もしっかりしてすごいなと思います。、流れも自然で主張やまとめが素晴らしい、さすがと感心。、画面も見やすく、話も聞きやすかった。、最後までいい！、内容がよかった。、興味を持てる話題だし、論理的な説明ですばらしいです！、無という否定から肯定的な話題に展開してよかったです。、すごく勉強になった。、声がいいです。、美、運想は難しかったと思いますが、内容がすごく良かったです。、阿部君のしっかりした意見に感激しました。、素晴らしいかったです。、文字の色の使い分けが良かった。、しゃべり方も良いし、自分の意見が入って良いと思う！、丁寧なプレゼンだった。、日本のことだけと全然自分が知らないこともあったので聞けて良かったです。、聞きやすかったし情報も多方面にわたってよかったです。、経路の概略、自身の意見共理解しやすい論理の展開が素晴らしい、ちょっと文字が小さい画面があった。、クールジャパンのことがよくわかった。、「無」のプラスの方向への運想がよかったです。、よく考えられた発表でした。、興味深いテーマだった。、勉強になりました！、テーマがとてもいいです。、難しい話ですが、すごいなと思った。、言いたいことがたくさんあるという内容の濃いプレゼンでした。、内容の広げ方がよかった。、ポジティブな発想でよかったです。、いい発表だったと思う。、どこかの会社のプレゼンみたいだった。、すごい。</p>						

図6 個人ごとの評価表の例

を他人がどう評価しているかが一目でわかることもあり、生徒は真剣に目を通していった。生徒が提出した Excel の表を一度データベース(私の場合は使い慣れた「桐」)に読み込んで、そこで個人ごとの出力フォームを作っていた。かなりの手間ではあるが、結果を生徒自身に還元することがなければ、ただ作っただけ、発表しただけの授業で終わってしまうと考えたからである。

## 6. プレゼンにかけた時間

プレゼンにかけた時間は、以下の通りである。

- ・大学選びプレゼン(作成) 3H ※説明も含む
- ・スライド評価 1H
- ・小論文について(講義) 2H
- ・一文字プレゼン(作成) 4H ※説明も含む
- ・発表および評価 4H

この間、授業が単調にならないように、授業の間に適宜コンピュータウイルス、個人情報、知的財産、などの講義を加えていった。これらの講義の内容は定期考査の範囲に加えることにしている。

## 7. 最後に

プレゼンの授業を行う場合、テーマを何にするのかは頭を悩ませることである。「自分の学校紹介」「部活動紹介」「情報科社会の明暗について」「スマホの危機」などいくつかをやらせたこともあるが、結構内容が漠然としていて、深まりに欠けるところが目立った。生徒によっては時間をもてあまし、アニメーションだけに時間をかけるものもいた。何とか生徒

自身に考えさせ、かつ生徒自身の今後につながるものはないかと試行錯誤の末、この「一文字プレゼン」にたどり着いた。

「一文字プレゼン」の授業は今回で3年目になる。初年度は漢字の説明が多かったのを、2年目でかなり修正させた。今年はかなり小論文を意識させたので、生徒たちはかなりきつかったようである。しかし、自分の意見、その裏付けという小論文の基本のところスライドに出ていたのは収穫であった。生徒たちにも小論文への意識付けはかなりできたものと思われる。進学や小論文と関係付けた今回の取り組みは、情報の授業で求められる教科横断的な授業の一例になるのではないかと考えている。

## 8. 余録

本校普通科3年は、進路希望により文系、文理系、理系にクラス編成してある。このため、クラスにより人数に37名から46名まで幅がある。PCは、千葉県では入札導入のため、生徒機は最大で42台までしか用意されていない。従って、PCが不足する場合、各校が補充することになる。現在導入PC42台(Windows 7 + MS Office 2010)だけでは足りずに、デスクトップ2台(Vista + 互換ソフト)、ノートPC2台(XP + 互換ソフト)を充当している。OSも違えば、ソフトも違うという状況の中での授業展開になる。生徒には実習時にはローテーションを指示し、順番に旧機種で実習させている状況である。各県により状況は異なるであろうが、情報担当諸氏の学校の状況はいかがなものであろうか。